

軽さと操作性、しなやかながらも高感度 リーオマスター真鯛AIR AGS

●常にコマセダイロッドをリードしてきたリーオマスター真鯛が、ダイワのカーボンテクノロジーの進化、素材やガイドなどすべての部分のぜい肉をそぎ落とした結果、大幅な軽量化を実現。感度、操作性が一段とアップして新時代のロッドに生まれ変わった。オールAGSガイドにNリング、強く美しく継ぎを感じさせない先進のV-ジョイントα、さらにESS、X45、エアセンサーシートなどダイワテクノロジーを余すところなく搭載している。全8アイテム。2月発売予定。

アイテム	全長(m)	継数(本)	仕舞(cm)	自重(g)	先径/元径(mm)	オモリ負荷(号)	適合ハリス(号)	カーボン有率(%)	メーカー希望本体価格(円)
SS-255AGS	2.55	2	131	113	1.5/8.4	20~100	—	83	66,000
SS-270AGS	2.70	2	139	115	1.5/8.4	20~100	—	83	67,000
SS-300AGS	3.00	2	154	128	1.5/8.9	20~100	—	84	68,000
S-270AGS	2.70	2	139	116	1.5/8.4	30~100	—	90	67,000
S-300AGS	3.00	2	154	129	1.5/8.9	30~100	—	91	68,000
M-270AGS	2.70	2	139	121	1.7/8.4	30~100	—	97	67,500
M-300AGS	3.00	2	154	135	1.7/9.4	30~100	—	97	68,500
MH-270AGS	2.70	2	139	137	1.8/9.4	40~120	—	97	68,000

スモールモンスター、シーボーグ200Jにダブルハンドル仕様追加

●アルミ製「ジョグパワーレバー」、防水、耐久テクノロジー「マグシールドボールベアリング」、ハイパワー「マグマックスモーター」などを搭載するスモールモンスターに、このたび手返し重視のダブルハンドル仕様2種が追加される。5月発売予定。



■SPEC:シーボーグ200J-DH/200JL-DH=自重465g、ギヤー比4.8、最大ドラッグ8kg、メーカー希望本体価格79,000円

ライトランクα

●トランク型クーラー最軽量のライトランクがさらに軽く、さらに使いやすくなって新登場。クラス最軽量、頑丈ボディ、ワンハンドオープンなどさらにユーティリティをアップしている24~32ℓ、全12アイテム。4月発売予定



■メーカー希望本体価格14,300~46,500円



▲ライトランクαは軽くて保冷力は十分

▲SS255はわずか113グラム、しなやかでもパットパワーは十分



▲一時はイナダの猛攻にあう



▲「片手でも楽しく」と言いながらオーバーアクションでアピール



★ダブルヒット。リーオマスター真鯛AIRがきれいな弧を描く

★「付けエサの有無が分かるほどです」と田淵さん

★エサ取りのあたりをかわしてマダイを釣る

宮澤幸則、田淵雅生 コマセダイ最強ロッド リーオマスターで乗っ込み前哨戦

THE FRONT OF OFF SHORE FISHING vol.54

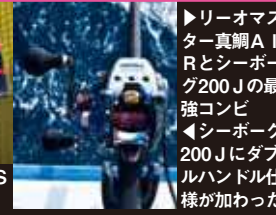
マダイ最前線

at 三浦半島剣崎間口港出船

●コマセダイの最強、定番ロッドと言われるリーオマスターがダイワの最新テクノロジーをまとうてモデルチェンジ、「リーオマスター真鯛AIR」として登場した。ぜい肉を排除して大幅な軽量化、AGSガイドをフル搭載、Vジョイントの見直しなど、まさに新生リーオマスターの登場だ。今回は名手2人が乗っ込み前哨戦として釣行した模様をお届けする。



▲2人とも快適マダイ仕掛SS2本バリを使用



▲リーオマスター真鯛AIRとシーボーグ200Jの最強コンビ
▲シーボーグ200Jにダブルハンドル仕様が増えた

★この模様は動画でもご覧いただけます。

「2020 マダイ最前線」に今すぐアクセス!!

宮澤幸則、田淵雅生のマダイ名手が三浦半島剣崎間口港、喜平治丸のマダイ船に乗り込んだのは北風が強く吹き付ける厳寒日だった。

「乗っ込み前にどうしてもこの竿を使いたくて」と宮澤さん。手にしているのは新製品「リーオマスター真鯛AIR AGS」である。リーオマスターといえばコマセダイの最強ロッド、今回のモデルチェンジではさらなる機能と最新テクノロジーが満載されているそう。

全部で8アイテムのラインナップがあり、SS255で自重113グラム、最も重いMH270でも137グラムしかないのだ。

「この竿は単に軽いだけではないんです」と田淵さんが意味深な言葉を付け加える。

定刻の7時に出船。宮澤さんはリーオマスターSS255、田淵さんはM300。これに新しくダブルハンドルタイプが仲間入りした電動リール「シーボーグ200J-DH/JL-DH」を使用。スモールモンスターに手返し重視のダブルハンドルが加わって、さらに使用範囲が広がったわけだ。

スタートは剣崎沖の50メートルダチ。2人とも積極的に手持ち竿で釣り続けるのは、軽さと操作性のなせる技。しなやかな

の最初のあたりで0.7キロ、続いて田淵さんも同級を釣り上げる。「この強風でもしっかり揺れを吸収し、エサ取りのあたりもとらえてくれます。AGSにNリング、ESS、そしてこの軽さが高感度につながっているんです」と2人は胸を張る。

昼を過ぎたところからイナダの猛攻が始まる。気持ちよく曲がるSS255に対し、M300はもの足りないくらいの余裕でイナダの引きをかわす。Vジョイントαのおかげで、いずれもワンピースロッドであるかのような美しい曲がりを見せてくれる。

トルクのあるバットと電動リールのパワーとも相まって、イナダと分かればガンガン巻いて、次つぎと船上に跳ね込んでいく。ひとしきりイナダの食いが続いたあとは、エサ取り、時おりマダイの時間。この日は1キロ級までだったが、それぞれが十分なマダイを釣って13時過ぎに沖揚がりとなった。

「この竿を使うと乗っ込みがますます楽になりました」と2人とも待ちきれない様子だった。